



民生技術の展示会「CES2024」に出展

NFTプラットフォームの活用訴求

真正性証明でビジネスユースに先手



CES展示会場で陣頭指揮を執る伊藤祐二社長(左)とNFT開発を手掛けるマーク・オーレル・シュナーベル博士(右)



今回、前面に置かれたNFTプラットフォームF8NFTS (FORUM8 NFT Service) では、NFT自動販売機への適用事例を紹介



フォーラムエイトは、LVCCセントラルホールにブースを開設し、来場者の注目を浴びていた

製造・エンタメ両方面に貢献

★昨年引き続き出展 民生技術と商品が世界から集まるCESは、年々の行事とあって注目度が高い。フォーラムエイトは、VR・メタバース関連出展が集まる、LVCC (ラスベガス・コンベンションセンター) 西側エリアに、昨年引き続き目を引くブースを構えた。

同社は、2023年12月にオーストラリア・シドニーで開催された「SIGGRAPH ASIA」でも、NFTプラットフォームの活用事例を紹介した。

フォーラムエイト (東京都港区、伊藤裕二社長) は、米国・ラスベガス (ネバダ州) で1月9-12日 (現地時間) に開催された世界最大規模の民生技術展示会「CES2024」 (以下、CES) に、昨年に引き続き出展した。今回は、コンテンツクリエイターに向けたNFTプラットフォームを前面に配し、Web3.0時代の流通に対応する姿勢を示した。また、定評あるVR・メタバースプラットフォーム、ドライブシミュレーターも展示し、多くの来場者が実際に体験していた。

★ビジネス分野で利用 NFTシステムの開発に従事する同社のマーク・オーレル・シュナーベル博士は「NFTにより、初めての相手に文書ファイルを送るときも、受け手に対して送り主を証明することができる」とアピールした。

シミュレーターは応用分野拡大 ドローン用プラグインも開発

「NFTは、アート作品の売買のためだけではなく、例えば、ファイルが作成者から直接渡された物なのか、他の人を介して渡されたかも検証できる」とフォーラムエイトが強調している。



NFTの応用として、作品にNFTを割り当てる「自販機」と、GPSでタグ付けされたNFTによるスタンプラリーが紹介された

「NFTは、アート作品の売買のためだけではなく、例えば、ファイルが作成者から直接渡された物なのか、他の人を介して渡されたかも検証できる」とフォーラムエイトが強調している。

技術と長い歴史を持つシミュレーターについて、現地では陣頭指揮に立つ伊藤社長は「シミュレーターは、ドローンとVRおよびセンサの連携システムなど、空でも応用が始まっていることを示した。」



VRをテーマパーク感覚で楽しめるライドは好評で、行列が途絶えることがなかった

★リアルティ向上も シミュレーターのリアルティ向上も準備しており、点群データを活用してリアルな画像を生成する技術の両方を備え、さらには「Shaded」の活用が見込まれる。同社は、自社のソフトとして提供している。

多様な分野で、同社のドタバタを連携させ、リアルティの高い仮想空間を実現できる。さらに、構造解析、FEM (有限要素法) 解析のソリューションも提供しており、土木、建設分野からの「視覚に正しい」状況表現の要求に添えてきた。